

1. 件名：福島第一原子力発電所の段階的な燃料デブリの取り出しに係る面談
2. 日時：令和4年12月1日（木）10時00分～11時45分
3. 場所：原子力規制庁 6階会議室
4. 出席者  
原子力規制庁  
原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室  
正岡企画調査官、新井安全審査官  
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー  
プロジェクトマネジメント室 2名（テレビ会議システムによる出席）  
福島第一原子力発電所 10名（テレビ会議システムによる出席）

#### 5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、今後の段階的な燃料デブリの取り出し規模の拡大における燃料デブリを保管するための設備について、必要とされる安全機能等を踏まえた設計の進め方に関する相談があった。
- 原子力規制庁は、上記の相談内容に対して、以下のコメントを伝えた。
  - 2号機の試験的取り出しが完了しておらず、取り出した燃料デブリの性状等が把握されていない状態で、今回相談のあった保管設備の設計をどこまで進められるかは不明であるが、今後、設計の成立性が見通しが得られた場合は、規制当局と東京電力間で合意したいポイントを絞った上で、技術会合で説明できるように準備すること。
- 東京電力から、上記のコメントについて了解した旨回答があった。

#### 6. その他

資料：福島第一原子力発電所 段階的な取り出し規模の拡大における燃料デブリを保管する設備の設計の考え方